

編集後記

2月3日節分、節分とは季節のかわりめのことで立春、立夏、立秋、立冬の前日をいうが、普通には節分というと冬から春の節にかわる立春の前日のことを指している。

昔から節分にはヒイラギの枝に鰯の頭を刺して戸口に飾り、夜に豆まきをして悪魔を追払うという伝統的な風習がある。

この節分にちなんだ狂言の一つに「節分」と題したものがあり、節分の夜に鬼が来て、女を口説くと、女は逆に妻になると偽って、隠れ蓑(ミノ)や打出の小槌をだまし取ってから、「鬼は外、福は内」と豆をまいて鬼を追払うというのがある。

植物の方では節分にちなんだものにセツブンソウ「節分草」がある。関東、中部地方以西の雑木林の林床に生育し、特に石灰岩地帯を好む。地下の球形の塊茎から茎を直立させ、茎の上部に羽状に切れ込んだ包葉をつけ、その中心に白色で5枚の花弁(正確にはがく片)をつけた花を開く。春浅い2~3月に花が咲くことから節分草の名がついている。しかし最近は乱獲や開発が進んで野生のものは減少し、かなり深山に行かないと見られなくなった。また一つ、春の風物詩が消えた思いで心淋しい限りだ。



春を告げるセツブンソウ

セツブンソウが咲くと、吹く風にも春の香りがして、春が近いことを感じさせてくれる。

農業をとり巻く環境は相変わらず厳しい。しかし、如何に科学が進歩し、工業が発達しても、人類の生存に不可欠なのは食料である。食料は大地と太陽の恵みがなければ絶対に生産することはできない。大地と太陽の恵みを受けて打出の小槌のように食料を生産する農業は永久不滅である。この人類生存の基本である農業に携わることの喜びと誇りをもって、春とともに訪れる農作業を楽しみたいものである。 ㊦

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

平成15年2月発行
植調第36巻第11号

定価420円(送料276円)
(本体400円, 消費税20円)

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 (有)